

# 西光寺だより

第二六四号 令和六年 四月一日発行

## ●今月のことば●

死支度（しにじたく）

致せ致せと（いたせ いたせと）

桜哉（さくらかな）

某月某日

八十五歳のトシエばあちゃんが、いつもとはちよつと違った顔つきでおつしやいました。

「ご院主さん（ご住職さん）、ポツクリ死にたいって、みんな言いますやろ。それはな、認知症になりとうない、病気になって寝こみとうない、痛い、苦しいと格好のわるい姿さらけとうない、そんなことからですが、せやけど、どんな姿で死んでいかんらんか、わかりませんわな。生まれてから死ぬまでの予定表持つてても、どこでどうなるやわかりません。

わたしもそうですが、だいたい、人間死ぬその瞬間まで死ぬなんて思いうて生きてません。でも死にますわなあ、みんな……。

うちのひとが言わはるんです。

「死ぬって、人間消えてしまうのと違うぞ」って。誰が言わはったか忘れたけど、誰かが雪は消えるんやない。土にとけこんでいくんや”って。

わたしそれ聞いて、なるほどなあと思ひましてん。

そうか、人間死んでも、それまで共に生きてきた縁のある人びとの心のなかにとけこんでいくんや。

逆に言うたら、見送った別れとうないもんと悲しみや、愛おしきをつつみこんで、一緒に生きていくんや。そう思いましたらね、ちつともさびしくないなあと……。

うちのひとに言いましたらね、ニヤツと笑うて、小さな声で「そうや」て言わはりまして、うれしおました。」

（本願寺新報）

雪がとけて、あたたかな春をむかえるこの時期。

「死支度 致せ致せと 桜哉」の小林一茶の句。

散りゆく桜に自分自身の死を考え、その準備をしようと思う一茶の気持ちがあられています。

桜を見ながらのちのちの無常を思い、ゆかりある亡き人のおかげで今があることを思いながら、共に生き続ける愛おしさに改めて気づくことでありました。

合掌



## ◆先月の報告◆

①三月十九日（火）西光寺本堂にて仏教婦人会追弔会ならびに総会を行いました。

正信偈のお勤めの中、亡くなられた婦人方を偲びお焼香・お念仏をさせていただきました。そして三年ぶりにお斎・お食事を皆さんでいただき、楽しく団らんの中、総会へと続いたことでもあります。

会計報告・行事報告、そして新役員改選の議論を致しました。

令和三年度より仏婦の会長をはじめ役員としてお世話いただきました方々、コロナ禍の時、思うように活動ができませんでしたが、老人施設のご要望を受け消毒液、マスク、そして手作り雑巾など発送に奔走していただきましたこと感謝申し上げます。

今年度より新役員の方々どうぞよろしくお願い申し上げます。



②三月二十四日(日) 西光寺太鼓楼にて総代会を行いました。

昨年度の会計報告、新役員編成、そして来年度に向けての行事予定役員分掌など、議論を深め、五月の総会へご審議できるよう進めさせていただきます。

今までの役員の皆さま、年番の皆さま、ありがとうございます。

そして新たな役員の皆さま、年番の皆さま、今年度もどうぞよろしくお願い致します。



#### ◆四・五月の行事◆

・四月一〇日(水)

追弔会・春季永代経法要

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◎御講師 高島 幸博 師(本願寺派布教使)

・五月二日(木)

総会

午後六時〜

西光寺本堂

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>